

第 8 4 8 回

定例教育委員会会議録

日 時 平成 3 0 年 8 月 2 9 日 (水) 1 3 : 3 0 ~

場 所 益田市役所 第 1 会議室

益田市教育委員会

第848回 教育委員会定例会

招集年月日 平成30年8月29日（水）13時30分～

招集場所 益田市役所 第1会議室

議事日程

第1 会議録の承認

第2 教育長報告

第3 議題

報第32号 平成30年度全国学力・学習状況調査結果について

報第33号 県史跡大元古墳群の国史跡指定について

報第34号 益田市歴史文化基本構想の検討状況について

報第35号 史跡益田氏城館跡整備基本計画の検討状況について

第4 その他

(1) 情報提供

- ・ 益田市立小中学校エアコン設置状況について
- ・ 益田運動公園の指定管理に係る仕様書について
- ・ 益田市歴史文化基本構想のシンポジウムの開催について

(2) その他

出席者

教育委員会

教 育 長
教 育 委 員
教 育 委 員
教 育 委 員
教 育 委 員

柳 井 秀 雄
渡 辺 隆
中 野 純
舟 橋 道 恵
村 上 三 恵 子

事務局職員

教 育 部 長
ひとづくり推進監
教育総務課長
学校教育課参事
文化財課長
人権・同和教育推進室長
美都分室長
匹見分室長
文化財課長補佐
文化財課主幹
教育総務課長補佐
教育総務課主任

武 内 白
大 畑 伸 幸
山 本 裕 士
城 市 博 明
木 原 光
石 田 公
河 本 昭 宏
佐々木 厚 造
山 本 浩 之
長 澤 和 幸
藤 本 美 香
中 田 香 織

柳井教育長 時間となりましたので、第848回定例教育委員会を始めさせていただきます。

早速始めたいと思いますが、今日は傍聴希望の方がいらっしゃいますが、よろしいでしょうか。

教育委員 =全員了承=

柳井教育長 それでは、公開するという事ですのでよろしくお願い致します。

第1 会議録の承認

柳井教育長 会議録の承認につきましては、先ほどご承認いただきました。

第2 教育長報告

柳井教育長 皆様には教科書採択で大変お世話になりました。これにつきましては、8月31日からホームページに掲載いたします。

続きまして、6日に斎藤駿育英基金会議がありました。

これは、匹見町出身の斎藤駿さんが匹見町の子ども達のために奨学金として寄付されたものを、匹見町出身の中高生で、金銭的に就学するのが困難な家庭に対して、学費を補助するという事業です。その会議がありました。

8日には、高津小学校のPTAと翔陽高校の生徒による奉仕活動がありました。

高津小学校の子ども達が使うトイレの照明をLED化するために、翔陽高校の電気科の生徒3人がPTAと一緒に電気の取付作業などをしていただきました。

続きまして、16日には教職員の人事権問題に係る検討小委員会がありました。

松江市の教職員の人事権移譲の申し入れについての会議でしたが、松江市の求める移譲について、全員が任用替えというのではなく、これから10年かけて300人程度を松江市の教職員として採用するという話でした。

現在、松江市の教職員のうち松江市に住んでいる者が97%ぐらいいる中で、あえてこういったことを行う必要があるのかという意見などが出ておりました。

また、この会議について、県議会議員から議会で公開すべきではないかという意見があるということでした。

続きまして、22日には島根県公・私立高等学校教育連絡協議会がありまして、これからの高等学校の学級数についてのあり方などを検討する会議がありました。

教育委員

それでは、以上ですが、この件についてはよろしいでしょうか。
＝全員了承＝

第3 議題

○報第32号 平成30年度全国学力・学習状況調査結果について

柳井教育長

それでは、報第32号平成30年度全国学力・学習状況調査結果について、事務局よりお願いします。

城市参事

それでは、資料冊子を配付しておりますので、ご覧ください。

前は速報値ということで報告をいたしました。その後、さらに詳しく分析したものを総務文教調査会に報告しまして、現在益田市のホームページで公開しております。今回はその資料を基に報告をさせていただきます。

前回は、各教科の参加人数について360人程度と報告いたしましたが、実際には400人程度でございました。

まず、資料の2ページからは教科に関する調査結果を掲載しております。正答率については残念ながら全ての教科、学年で全国平均を下回っていました。

しかし、小学6年の算数あるいは中学3年の数学、国語の一部の領域に関して見ると、昨年度の島根県学力調査結果と比べて改善が見られたものもありました。

また、中学3年の数学Aにおける「資料の活用」の領域では全国平均を上回るなど、領域的には伸びているものもありました。

細かくは説明いたしません。各教科、各学年において課題があるもの、あるいは無回答が多かった設問を載せています。各学校においても、これを参考に分析を進めているところです。

次に、8ページ、9ページには、それぞれの教科、学年の領域ごとの正答率を載せております。中学3年の数学において、かなり全国値に近づいている様子が見て取れました。

それから、児童生徒質問紙というものがあわせて実施されました。10ページにはその回答と各教科との相関関係が分かるようにクロス集計をしたものを掲載しております。

学校生活の決まりを守っているかどうかという質問と各教科の正答率をクロス集計したものを掲載しておりますが、相関が高いことが分かりました。特に中学3年については、どの教科においてもはっきりと見て取れます。決まりや集団生活がきちんと行えるということが、いわゆる落ちついて学習ができるということと大きく関係していることが分かります。

11ページ以降は、学校の授業の様子、それから教科の学習状況について掲載しております。

縦の棒グラフがたくさん並んでおりますが、小学校も中学校も真ん中の棒グラフが今年度分を表しておりますので、真ん中の棒グラフが高ければ高いほど良い成果が出ていることになります。

13ページには、ICT機器等の活用状況について掲載しております。

前回も申し上げましたが、プロジェクター等のICT機器はたくさん利用されていることが分かります。前回、中野委員さんからもありましたが、こういったものを授業の中で上手く活用していくことで、さらに子どもの力を伸ばしていくことができるのではないかというご意見もありましたので、この辺りについても検討しているところです。

次に、14ページには、小・中学校間の連携について掲載しておりますが、やはり小中一貫教育というものをしっかり進めていく必要があるということがこの結果からも見て取れます。

15ページから掲載しております家庭学習状況については、前回も報告いたしましたが、中学校においてまだ課題があるということがはっきり見て取れます。いかに家庭学習習慣を身に付けるのかという方策を各学校で早急に立てていく必要があるということが分かります。

次に、17ページ以降には放課後や家庭での過ごし方について掲載しておりますが、家庭でテレビ、ビデオ、ゲーム、インターネットなどのネット環境にあるものへの接触時間が徐々に増えつつあるということが見えますので、情報モラル、情報リテラシーの形成が必要であろうというふうに考えております。

20ページには、自尊感情に関するものを掲載しております。社会教育課の取組の中でライフキャリア教育などが充実していることもあり、自尊感情はだんだん高まりつつあるという結果が出ております。

最後のページには、学力育成推進室で協議した今後の方策についてまとめております。今年度、各学校において、学力育成担当者というものを指名していただいています。各学校でPDCAサイクルを回しながら、学校の取組として学力育成をどのように進めていくのかということをごの方を中心にして進めていくような取組を行っております。

今回の結果を基に、10月からになりますが、2回目の学校訪問を行いまして、この全国学力・学習状況調査の結果を基に、学校としてはどのようなPDCAサイクルを活用した取組の改善を行っているのか聞き取りし、支援をしていきたいと考えております。

あわせて、小中一貫した教育についても強く推進していきたいと考

えているところでは。

簡単ではありますが、説明は以上となります。

村上委員

この学力調査をするに当たり、一人一人の子どもやその保護者の方に対して、この調査結果をどのようにお伝えしているのか、また、一人一人の子どもにどのように活かしていっておられるのかというところを伺いたいと思います。

城市参事

この全国学力・学習状況調査の結果は8月に返ってきます。その中には個人別のものが入っておりまして、2学期に入って各個人へ配りながら、それぞれの課題について確認することになっております。

ただ、実施してから各個人へ結果を返すまでの期間が大変長いので、学校では4月に実施した直後に自己採点をしてもらっています。自己採点をしながら、個人個人のどこに課題があるのか、十分に力がついていないところを把握して、学習活動あるいは補助的な学習に活かしたり、夏休みに学校へ呼んで指導するなどしております。

舟橋委員

子ども達が自己肯定感を高めているというところはすごくうれしいことだと思います。

ただ、この結果を見ると、なかなか力がついていない状況もあると思いますが、大きく影響しているのは何だと思われませんか。

城市参事

この調査は、毎年、小学6年と中学3年しか実施しておりませんので、同じ集団を経年比較しているわけではありません。そういった意味で経年的に伸びている伸びていないというのはあまりふさわしくないと思っております。

その中でも、全国と比較して、追いつきつつある様子は見えますが、依然として全国を下回っております。

ただ、全国も伸びてきている状況がありますので、その差が縮まりつつありますが、まだ到達してないというだけであって、とても大きな課題があるというふうには捉えておりません。

改善してきているというふうには捉えておりますが、その中で全国に追いついていないところについては、400人余りの子ども達の結果が個人個人で様々であるため、どこが課題なのか一概には言い難いところがあります。

舟橋委員

答え難いことを質問しました。

しかし、毎年、益田市が全国、県平均などから見ると少し落ちている傾向にあると思います。

結果から見ると、やはり家庭学習あるいは学校でも良いですが、自主的な学習や授業の予習、復習などが出来ていないと思います。授業の中で理解して、そこでしっかり自分の力にしていくということが

一番大きな力になるんだらうとは思いますが、今回の結果にも出ているとおり、中学3年の家庭学習の時間は大変短いと思います。これは何が原因だと思われませんか。

城市参事

これも非常に答え難いですが、一つは学校からの方策をもっとすべきであろうというふうに捉えています。

特に宿題をする子どもほど正答率が高いというような結果も出ておりますので、学校からもしっかり宿題を出していくなどの家庭学習の方策づくりをしていくべきだろうと思っております。

舟橋委員

この結果を見ると、子ども達の自主性は学校の勉強よりも部活などの方に重きを置いている状況にあるように思います。

部活や地域のスポーツには、自分はこれが出来るという喜びや、仲間がいたり、親が喜んでくれることにより、自主的にやろうという気持ちに繋がっていると思います。この良い循環がまだ学校の取組の中に取り切れていないところがあり、子ども達の自主性がどうしたら高まるのかというところを考えていけないといけないと思います。

部活やスポーツで頑張る気持ちというのは大事だと思いますが、それでも今、部活の見直しなどが課題となっており、今回の結果からも時間がないという状況が、子ども達の生活の中で起こっていると思います。

こういった状況で、保護者から勉強しなさいと言われても、子ども達はその気にはならない、自分はこうしたいという思いが強くなるのではないかと思います。この辺りの意識をどうしたら変えられるのかの一つの問題だと思います。

また、一方では、家庭生活の中で学習が出来る時間を取れるよう、部活のあり方などについても見詰め直す必要があると思います。

城市参事

言われたことにつきましては、この調査結果の「放課後あるいは週末に何をして過ごすことが多いのか」という質問に如実に表れておりまして、特に中学生は部活動等が大変大きなウエイトを占めております。

これにつきましては、大きな課題として捉えていけないいけないと思っておりますので、何らかの方策が必要であると考えております。

渡辺委員

先般、新聞で見ましたが、全国では学力テストによって、教職員に対して厳しい締めつけをしたり、ある市長はこれ以上下がれば自分の給与をカットするという記事がありました。

学力調査は必要だと思いますが、成績が上がらなければ、それを勤務評定だとか賃金に反映されるという状況は本当に良いのだろうかと思っております。

村上委員 毎年同じような傾向がある中で、調査の結果が活かし切れていないもどかしさなどは、学校の先生方や子ども達に関わる方達はもっと感じておられると思いますが、どこをどう改善したら良いのか、県の教育行政なのか益田市の教育行政なのか、もっと大きな社会環境なのか、改善していける糸口みたいなものはないのでしょうか。

城市参事 一人の子どもさんに関わる環境には色々なことがあるので、これで全てが解決するということはなかなか難しいところで、とても一言では言えませんが、ただ、本年度教育長が教育行政の方針として小中一貫教育を進めていくとしておりますが、学校質問紙の結果によると、小学校、中学校の連携がほとんど取れておりません。特に学力調査の結果についてはほぼ共有されておられません。同じ子どもを育てているわけですから、小学校、中学校の連携、一貫した教育というのをこれからしっかり進めていくことが一つの大きな糸口にならないかなと考えております。

大畑推進監 新しい学習指導要領では、教えたことが身につけているかという観点だけの学力調査ではなく、学力調査では示されないこれから必要な力、資質、能力についてももう一度見直そうとされており、新しい学習指導要領に盛り込まれている要素です。ですので、今後問題の質も併せて、質問紙の内容の充実も図られると思います。県比較はできませんが、教えられたことが身に付いたかどうかだけではなく、これから先、子ども達につけていかないといけない力を出発点とすべきだと思います。

益田市にとって目指すべき子ども像の中に、身に付けておかなければならない力とは何か、どんな資質が要るのかということについて、今後、検討していく必要があると思っております。

舟橋委員 これから身に付けていかななくてはいけない力というのは本当に大事なことで、なるべく早く取組んでほしいと思います。

11ページを見ていただくと良いと思いますが、自分の考えを深めたり広げたりするのに効果のある「人と関わりながら学ぶ」活動を子ども達が好んでいるのが分かります。しっかり対話して深め合える状況をいかに作るか、それをICT化の中でやっていけるのであれば、さらに力が付くのではないかと思います。

話し合う活動というのを上手く活用しながら、子ども達が発言し、自分の言葉で自分のことを表現して、お互いの関係を認め合うという人間関係づくりなども含めて意識を持てば、さらに変わってくると思います。

益田市の中でも、学力調査の結果が全てではないということは申

し上げておりますが、力を付けるという意味では、目に見えて力が付いたことが分かります。ですので、その方の学校での実践や子ども達の関わり方などを発表してもらおう場などもしっかり設けていただきながら実践化ができればよいかなと感じました。

柳井教育長

教員は子ども達の持っている力を最大限に引き出すということが使命だと思っておりますし、当然保護者や地域もそういった願いを持っておりますので、成果を上げている学校、課題は何なのかということなどを意見交換しながら、子ども達の学力育成を進めていきたいと考えております。この全国学力調査の結果についての臨時校長会を開催したいと考えております。

舟橋委員

もし開催されるのであれば、教育委員もその場に参加させていただければ、私たちも意識を変えることができるかなと思いますので、是非ご案内いただければ嬉しく思います。

中野委員

私も中学生の子どもがおりますので、学校も学力の向上に力を入れているのではないかなという動きが見えますので、少し情報提供させていただきます。

まず、放課後や週末の過ごし方に力を入れておられるのが、私の子どもの家庭での様子から分かります。テストが増えているのかなというような感じがしますが、夏休み期間には家庭学習に取り組むような姿勢が出ているので、学校からしっかり指導がなされているのではないかと感じており、その効果が今後出てくるのではないかと感じております。

それと、18ページ、19ページの結果から気になったところがありまして、家族と過ごすというところと家庭で勉強や読書をするというところに関係性があって、今、家族と過ごす時間が減りつつありますが、これを全国レベルに近づけることによって、学力の評価が上がることに結びつく可能性があるのではないかと思います。

あと、週末の地域活動については全国平均、県平均を見ましても、益田市の子ども達が地域との関わりを深めていきたいという動きが見られますので、ここの辺りを活かしながら学習の方に目を向けられるような工夫をすることで、短期的なところで考えると難しいかもしれませんが、中長期的に捉えながらやっていくのも一つの方法として必要なことではないかと思いました。

柳井教育長

貴重なご意見をありがとうございました。

それでは、この件につきましてはよろしいでしょうか。

教育委員

=全員挙手=

○報第33号 県史跡大元古墳群の国史跡指定について

柳井教育長

それでは続いて、報第33号県史跡大元古墳群の国史跡指定についてお願いします。

木原課長

大元古墳群に係る経過につきましては、5ページの「経過及び予定」のところに記載をしておりますが、全長89メートルの前方後円墳として平成11年に県指定になりました。

その後、地域の関心や注目がさらに高まって、平成21年には、地権者や地元から国指定に格上げをしてほしいという要望書が提出されました。これを受けまして、平成24年度から発掘調査を実施してまいりました。

調査結果につきましては、「規模、特徴、評価」のところに重立ったものを記載をしております。

資料6ページには、模式図による古墳の規模の比較と、島根県内の地域別の主要な古墳の変遷の図を掲載しております。古墳時代の前期においては、県内で最大の古墳でありました。それから、古墳時代全体で見ますと第3位、前方後円墳としてみますと第2位を誇っておりまして、石見地域ではスクモ塚とともに、他を圧倒しております。

益田平野とその周辺は、大元古墳、スクモ塚古墳、さらに小丸山古墳の大型古墳が連続して出土されておりますが、その背景としましては、古墳時代における益田地域は大和政権による日本海沿岸地域の統一支配の西の拠点であった可能性が研究者から指摘されております。

これを表すように、大元1号墳は、山陰から北陸にかけて80メートルを超す前方後円墳が8基ほどありますが、そのうちの一番西に位置する重要視すべき古墳として評価をされます。

なお、資料6ページの中段の模式図には規模が89メートルになっております。これは、以前の資料で、古墳が作られて以後に斜面の土砂が流れて堆積しており、それを計測したのが89メートルであり、今回の調査では、堆積した土砂を取り除いて、築造した当時の古墳の状態を計測をし、実際には85メートルであったということが明らかになりました。

7ページのところに、全体の古墳の形を図面にしておりますが、1号墳とそのすぐ隣にある直径14メートルの円墳と考えられる2号墳を加えた大元古墳群について、今後、地権者の同意を得て、国指定に格上げしていくという動きを進めていきたいと考えております。

それから、本日お配りいたしました益田市立歴史民俗資料館の資料ですが、発掘調査展2018ということで資料館に大元古墳群やスクモ塚古墳、三宅御土居からの出土品を展示しておりますので、是非ご

覧いただきたいと思います。

中野委員 こちらの古墳は、バックデータ等の電子データがあるのでしょうか。もし、あるのであれば、最近はVRという技術もありますので、今後そういったところに展開させていくなどのお考えがあるのかどうかお聞かせください。

木原課長 地形測量のデータはありますが、ご提案のあった活用方法には向かないデータになっております。ただ今後はそういった活用も考えてまいります。

中野委員 最近は、技術も非常に進歩しておりまして、3次元的な形で見ることによって、より身近に感じられ、より興味、関心が高められたり、実際に現地に行ってみようということにも繋がるのではないかと思いますので、検討できるのであればお考えいただければと思います。

柳井教育長 ありがとうございます。それでは、この件につきましてよろしいでしょうか。

教育委員 =全員了承=

○報第34号 益田市歴史文化基本構想の検討状況について

柳井教育長 それでは続きまして、報第34号益田市歴史文化基本構想の検討状況についてお願いいたします。

木原課長 この報告につきましては、長澤主幹のほうから説明をさせていただきますが、議事日程の第4、その他で、益田市歴史文化基本構想のシンポジウムの開催について情報提供する予定としておりますが、これにつきましても一体のものでございますので、報告とあわせてご説明いたします。

長澤主幹 益田市歴史文化基本構想の検討状況について説明いたします。

益田市歴史文化基本構想とは、市内に点在しております文化遺産、これは指定、未指定を問わず、有形、無形も問わず、全ての文化遺産を把握しようということで動いております。そこで把握をいたしました文化遺産から益田市の特色ですとか、特徴を抽出いたしまして、それらをどのように守り、活用し、次世代に伝えていくのかということをもとめたものになります。

この益田市歴史文化基本構想は、平成29年に検討着手いたしまして、今年度後半の策定を目指して現在取り組んでいるところです。

策定にあたりましては、歴史文化に関わります諸分野の専門家15名の委員に検討、審議をいただいております。

また、特に活用に関しましては、歴史の枠を超えまして、報道や文化施設、経済団体などの代表者に参加いただく有識者懇話会というも

のを設けまして、ご意見を伺っております。

平成29年度には1回の懇話会と2回の検討委員会を行いまして、平成30年度は1回の懇話会と3回の検討委員会を予定しております。

また、9月24日には益田市歴史を活かしたまちづくりシンポジウムを開催する予定としており、策定中ではありますが、歴史文化基本構想を策定した後はどのように活用していくのかということをも市民と共有をしたいということで計画したものでございます。

中心になりますのは、既に歴史文化基本構想の策定をし、かつ日本遺産の認定を受けている福井県小浜市の担当の方をお招きし、メリット、デメリットなどをお聞かせいただきながら講演していただき、それを中心にして今後の活用を考えていくというところでございます。

教育委員の皆様にも可能な限りお越しいただければと思います。

1月末までには歴史文化基本構想を益田市の構想として決定し、2月には日本遺産の認定申請をしたいと考えております。

日本遺産の認定申請をしていくためには、歴史文化基本構想を策定することが条件になりますが、構想策定まで待っては当然対応が遅れてまいります。この歴史文化基本構想の検討と並行して、文化庁と複数回協議していきたいと考えております。

渡辺委員

12ページの関連文化財群の内容(案)を見ましても、この益田市全域に渡って、益田の宝というようなところを探していただいております。大変うれしく思います。

日本遺産に指定された後には、将来的にどのような形で新しいまちづくりにつなげていくか構想があれば教えていただきたいと思っております。

木原課長

構想を策定しますと、先ほどの日本遺産の認定を含めた日本遺産推進事業という補助事業の採択、不採択を受けます。これは、情報発信、人材育成、普及啓発等のソフト整備の事業に限定されますが、認定を受けた後には、まず、情報発信に取り組んで、しっかりPRしていきたいと考えております。

また、日本遺産の認定を受けなくても、歴史文化基本構想を活用した観光まちづくり事業というものがありまして、これもソフト整備に限定されますが、これの採択を受け、ここからハード整備につなげていきたいと思っております。

ハード整備を行わなければ、目に見える形での歴史を活かしたまちづくりの実現になりませんので、担当課の思いの段階ですが、文化庁と農林水産省と国土交通省が所管する歴史まちづくり法という法律がありまして、この法律に基づいて、いろんな計画の認定を受けることができれば、さまざまな形で補助金、交付金の支援を受けることがで

き、いろんな法律上の特例措置も受けることができますので、文化財課だけではなくて、まちづくりの関係課と一緒にした総合的な施策の実施によって歴史のまちづくりを実現していきたいと考えております。

渡辺委員

今までも色々な計画に携わってきましたが、計画書ができればそのまんま書庫にしまったのではないかなというようにもなりました。

常時、職員が目につくような形で、担当者が変わっても、将来的にこの計画を活かすという気持ちを持ち続けて取組んでほしいと思いますので、よろしく願いいたします。

舟橋委員

今、渡辺委員さんがおっしゃったことは大事なことだと思います。また、計画を継続させるための、さらにこれを支えていくものが色々あると思います。

そこに生きている人たちの意識がいかに高まり、深まり、興味、関心を持っているか、それぞれが自分自身のこととして捉えていけるかということが、この計画が継続するか否かにも関わってくるのではないかと思います。

各地区から要請があれば説明会や研修会を行うなどしながら地域の意識を高めていくことも大事だと思いますし、地域住民と一緒に取組んでいくことが必要で、その基盤となることを忘れないでほしいと思います。

村上委員

私も地域住民と一緒に取組んで、この益田市にある貴重な財産を守っていく取組が必要だと思います。

日本遺産の認定を目指すための最初のステップとして、この歴史文化基本構想の策定に取組んでいくということ、また前段の大元古墳群の国の指定に向けての取組であるとか、地道な作業だと思いますが、そういったところについても市民に対して情報発信をしていながら、一緒になってこの貴重な財産を守っていく取組を進めていくことが出来れば良いと思いました。

中野委員

13ページにある地図ですが、こういった地図になっているのを初めて拝見しまして、この益田市には、歴史文化、重要施設等、たくさん財産があるなというふうに思いました。

市民の一人として、子ども達にも地域の宝というものを知ってもらうことは、必要なことだと思います。例えば、これを中学校や小学校に配布をするなどは考えておられますか。

長澤主幹

現在、各地区の把握をしながら、その結果を図面に落としております。各公民館とも連携をしながら取組んでいるところですが、公民館単位での図面も作成していくことを考えておりますので、学校に

示せるものは示していきたいと思っております。

中野委員

ありがとうございます。

日本遺産認定申請というところが一つの狙いとしてあると思います。そういった流れの中で、子ども達を含む市民の機運を高めるということが必要だと思いますので、可能であればお願いいたします。

柳井教育長

市民の機運を盛り上げるためにも、もっと情報発信をし、市民の熱い思いが盛り上がれば日本遺産の認定も近いのではないかと思います。

それでは、この件についてはよろしいでしょうか。

教育委員

=全員了承=

○報第35号 史跡益田氏城館跡整備基本計画の検討状況について

柳井教育長

それでは続きまして、報第35号史跡益田氏城館跡整備基本計画の検討状況についてお願いします。

山本補佐

史跡整備推進室の山本です。よろしく申し上げます。

まず、この事業の目的でございますが、益田市では、将来的に史跡益田氏城館跡、つまり三宅御土居跡と七尾城跡、この2つの史跡を整備していくという予定になっております。その段階的な整備のための計画を現在策定しているところです。

策定するにあたって、内容確認のための発掘調査、また三宅御土居を中心とした公有化等を進めてきたところであります。

昨年度から2カ年の計画で整備基本計画の策定に着手いたしまして、本年度策定完了する予定となっております。

次に、策定事業の実施体制です。整備検討委員会の委員は8名おられます。そのうち2名の方に地域代表として入っていただいております。指導助言として、文化庁と島根県に入っていただき、事務局は教育委員会及び益田地区の交流拠点となっております益田公民館になります。

さらに、さまざまな規制ですとか法令等があり、各関連分野についても検討していかなければなりませんので、庁内におきましてワーキング会議というものを立ち上げております。その委員には、政策企画課、農林水産課、観光交流課、都市整備課、そして社会教育課から入っていただき、意見を聞きながら調整を行っております。

次に本年度の事業計画です。

まず、この計画の本体となります整備検討委員会は年2回の計画としておりまして、1回目は既に終了いたしました。2回目を9月17日に予定しており、この日が最終の委員会になりますので、午後からは答申をいただけるように考えております。この答申を受けまして、

政策調整会議で協議をいたします。

さらに、市民の方々からの意見も聞きたいというところで、パブリックコメントを11月中旬から12月上旬を目途に計画しております。

その後に政策調整会議で協議し、益田市の計画として決定をするという流れになっております。

また、普及啓発事業も考えておりました、10月28日に七尾城で市民の皆さんと一緒に草刈りなどをするワークショップを考えております。山城の研究者の方にもお越しいただき、歴史勉強とあわせて機運を盛り上げていこうという計画であります。

計画が出来上がった後のことになりますが、地元の方や権利者の方にこの計画の概要を説明しなければなりませんので、3月以降に説明会の実施を計画しているところです。

次に事業の進捗及び成果でございます。

計画の目次をご覧ください。整備に関わってくるのが第4章からになりますが、第4章には基本方針などを載せ、第5章に整備基本計画、第6章が完成のイメージ図を載せるという内容で検討しているところです。

昨年度は、第5章の第6節「公開、活用に関する計画」までを検討いたしました。今年度は、今まで検討してきた内容をもう一度見直しつつ、第7節「管理運営に関する計画」から第6章「完成予想図」までを検討しているといった状況でございます。

整備するに当たってのおおよその方向性は、基本理念であります歴史を活かしたまちづくりの核として、遺構の保存を大前提としながら、その価値や特徴を顕在化し、城館跡の価値を未来へつなぐための歴史公園として整備をしたいという思いを持っております。

整備目標といたしましては、城館らしさの顕在化を念頭に考えております。城は城、館は館らしさを表に出していこうというところです。

例えば三宅御土居につきましては、堀と土塁がセットで残っているというところが大変貴重であり、将来的にはこうした部分を全面的に出していくように整備を行いたいと考えております。また、七尾城は非常に立派な山城でございますので、城下から見上げて山城と分かるような整備を行いたいと考えておりました、具体的に申しますと、伐採が中心となってくるのではないかと思います。現在の七尾城は、管理道が整備されておりますので本丸までは行けますが、より行きやすくなり、また、本丸、二の丸を中心とした伐採を行うことで、より山城らしさを強調するような整備を心がけていきたいというふうに考えております。

計画期間は、おおむね10年を一つのスパンとして考えておりますが、これが1期、2期と継続していきます。そうすると、その時の財政状況やその時々の問題もありますので、各期のはざま期におきまして改正を加えていくというふうに考えております。

簡単ですが説明を終わります。

中野委員

基本理念のところに歴史公園ということが書かれておりますが、伐採だけで済むのか、そうではなくて周辺施設、例えば駐車場の整備、歴史的なものを展示するような施設など人が集まれるような形にしていくような構想があるのか分かる範囲でお聞かせいただきたいと思います。

山本補佐

やはり史跡という歴史性を持っているといったところで皆さんに活用していただけるような公園を考えておりました、子どもさんにも来ていただきたいと考えております。

まだ検討段階ですので、言葉を選ばなければならない部分もありますが、駐車場につきまして、基本的には史跡の上に駐車場を作れませんので、それに準じるような施設を作らなければいけないと思っております。

学習施設としましては、現時点ではガイダンスの施設を三宅御土居と七尾城に作っていきたいと考えておりました、史跡スペースというのは大変厳しい規制がありますので、場所は特定できませんが、史跡指定地の隣接地に作っていきたいと考えております。

中野委員

ありがとうございました。

もし可能であれば、先ほどの古墳の件と同じような話になるかもしれませんが、最近では建物を建てるだけではなくて、バーチャル的にスマートフォンやタブレットを使いながら見せる方法であったり、それに伴う解説、日本語の解説であったり、海外に向けた解説であったりというのが技術としてあります。例えば、七尾城をバーチャル的に見ることで、よりそこに足が向けられるような仕組みが出来るのではないかと思いますので、可能であれば検討していただきたいと思います。

山本補佐

ありがとうございます。

ソフトの構築というのが大変重要な要素を占めるのではないかと思いますので、時間をかけて研究しつつ、将来的には実現に向けて、そうした計画内容を盛り込んでいきたいと思っております。

柳井教育長
教育委員

それではよろしいでしょうか。

=全員了承=

第4 その他

(1) 協議

○益田市立小中学校エアコン設置状況について

柳井教育長 それでは、第4その他の情報提供に参りたいと思います。益田市立小中学校エアコン設置状況についてよろしくお願ひします。

山本課長 先般、議会でも報告いたしました、現在の状況ということでご報告させていただきます。

小学校ですが、普通教室が138室ありまして、その内エアコンが設置されているのは7室でございます。また、中学校につきましては、普通教室67室のうち16室にエアコンが設置されております。

最短で33年度までに、普通教室のエアコン整備を完了する計画としております。

また、資料の表の右側には、放送室、職員室などの管理諸室について載せておりますが、会議室を除くこれらの部屋には、ほぼエアコンが整備してあります。

中野委員 エアコンの運用方法ですが、エアコンをつけて快適な環境づくりというのは大事だと思いますが、同時に経費も膨らんでくるということを考えれば、例えば気温が何度以上になればつけるとか、時間を決めてつけるなどの一定のラインを作って運用するなど、どのように考えておられるのかお聞かせいただきたいと思ひます。

山本課長 現在のところは、まだルールを設定しておりませんが、当然作っていかないといけないと考えております。

柳井教育長 それではよろしいでしょうか。

教育委員 ＝全員了承＝

○益田運動公園の指定管理に係る仕様書について

柳井教育長 続きまして、益田運動公園の指定管理に係る仕様書についてよろしくお願ひします。

大畑推進監 益田運動公園の指定管理に係る仕様書は最終的に来月頭に選定委員会で決定するので、本日はあり方検討委員会での話を踏まえながら、仕様書の内容についてご説明いたします。お配りしております仕様書につきましては、会議終了後に回収させていただきます。

資料をご覧ください。左側が5年前の仕様書、右側が今回のものになります。

仕様書を作成するにあたって、指定管理者に求める業務については、スポーツのあり方、施設のあり方になりますが、スポーツだけではなく、例えば生きがいであったり健康づくりであったり、また、催しと

というような多様な使い方をする施設にしていきたいというところを考
えております。

また、今回新たな要件としまして「団体等との協働事業の推進を図
るとともに、団体等への支援を積極的に行うこと。」としております。

これまでは、運動公園の指定管理者として、運動の為の教室を開催
するなど様々なことを課しておりました。しかし、今回は、指定管理
者だけでなく、体育協会など様々な団体と協働で行うこと、合わせて
その支援に努めるように要件を変えております。

指定管理者に中間支援団体的な業務を課したのは、運動公園を運動
だけではなく、様々なものに利用することが目的で、このように仕様
を変えたというのが大きな改善点だと思います。

また、併せて今まで指定管理者が行っていたスポーツ教室等を開く
ための経費を減額して、益田市体育協会やレクリエーション協会など
の団体に対しての支援に回すことで、運動公園を拠点としながら様々
な活動を行っていきたいと考えております。

現在の指定管理者はその点を考慮しておりまして、今年度、既に小
学生に関して野球、サッカー、テニスでリーグ戦を行い、団体と連携
しながら運動公園の利用促進に努めております。

個人が活用するよりも団体が活用することが運動公園の利用促進に
繋がり、施設維持にも繋がるだろうということが検討委員会でも話に
出ておりました。

9月上旬に庁内の選定委員会で仕様書が確定しまして、9月から1
0月にかけてプロポーザル等の実施を行い、10月末ぐらいのところ
で最終的な審査会を行おうと思っております。

村上委員

仕様書が大きく変わって、指定管理者と団体が協働しながら、市民
が利用しやすくなるように変わるということは素晴らしいことだと思
います。

指定管理を受ける団体は、職員の処遇や職員の資質など、そういつ
たところを教育したり、研修の機会を持ちながら信頼関係を持って進
めていく中で、雇用の継続などを考えた時に、協議の中で指定管理期
間を10年とするという話も出たのかお聞かせ下さい。

大畑推進監

10年となると、市が10年間の債務負担を確保することとなり、
現在の財政状況を見ると5年でもかなり厳しい状況であるので、難し
いであろうというふうに思っております。

しかし、内部ではそういった議論もありますので、今回については
難しいと思いますが、次に向けて、運動公園だけではなく多くの指定
管理施設を持っておりますので、検討していく必要があると思います。

柳井教育長
教育委員
柳井教育長

それではよろしいでしょうか。

=全員了承=

それでは、次回の日程を決めたいと思います。次回は9月27日の13時30分から定例教育委員会を開催いたします。よろしくお願いいたします。それでは以上で定例教育委員会を終了いたします。ありがとうございました。

=終了時間 15時13分=